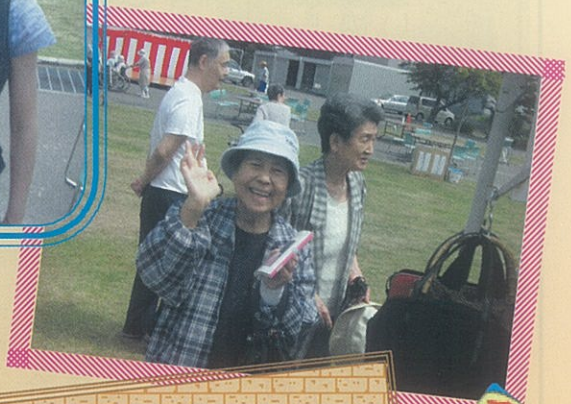
2008年　37号

小樽育成院だより

えがお

発行
社会福祉法人 小樽育成院

〒048-2671
小樽市オタモイ1丁目20番20号
TEL（0134）26－0162(代)
FAX（0134）26－2874



第1回 オタモイ唐門祭り開催！！

社会福祉法人小樽育成院 創立110周年講演会
「マリンホール」で開催！
大勢の市民の皆様に参加していただきました。

理事長就任ご挨拶

社会福祉法人小樽育成院
理事長　小坂　康平

この八月一日に、当法人の理事長に就任いたしました。

折りしも当法人創立百十年という節目の年に、経営に携わる事になり、その責任の重大さに、身の引き締まる思いでございます。

これまで、高橋昭三前理事長はじめ、歴代の理事長、役職員の皆様が大変なご苦労をされて築いてこられました経営理念や健全な財政基盤をしっかり維持していくため、微力ではございますが精一杯努力をして参りたいと考えております。

最近の老人福祉事業を取り巻く情勢は大変厳しいものになっております。特に、国の福祉予算の抑制策で、医療費や介護報酬などの削減が進められており、当法人にとりましても大きな影響を受けているところであります。これ以上の削減が続きますと老人福祉事業の経営そのものが、限界に達すると言っても過言ではありません。

このような危機的な状況ではありますが、役職員のみなさんの協力を頂き、何とか乗り切っていかなければなりません。

そのことが、これまで築いてこられた経営基盤を更に安定させることに繋がり、小樽市の社会福祉基盤の向上に少しでもお役に立つことになるものと考えております。

どうかこれまで寄せられました、関係の皆様方の変わらぬご支援とご指導を心からお願い申し上げる次第でございます。

社会福祉法人小樽育成院　平成二十年度事業計画

今年で百十周年を迎える当法人としては、創立者をはじめとする先人たちの思いを受け継ぎ、社会福祉法人の本来的使命と役割を再認識し、以下の様に二十年度事業方針を定め、事業を推進してまいります。

◇事業方針

「福祉倫理の醸成と利用者中心のサービス提供」

事業方針を遂行していくのは職員です。特に社会福祉事業のサービスレベルは福祉倫理と価値を持っている職員によって規定されます。

福祉倫理の醸成は主に教育・研修によりますが、各事業所のサービスレベルに差が生じないように、法人全体での統一した教育・研修に取り組みます。

近年の福祉・介護業界における人材不足は深刻なものでありますが、募集、採用時の条件を見直し、関係機関への働きかけ等により人材確保を目指します。また、人材の流出を防ぐためにも適切な処遇、待遇の改善を行います。

経営安定のための利用者増と利用者中心の優良なサービス提供のため、各事業所における利用者の動向や満足度などの情報を集め、適正な事業規模や人員配置など効率的で効果的な編成を検討してまいります。

社会福祉法人小樽育成院
創立百十周年記念事業
盛大に行われる

六月二十一日（土）小樽マリンホールにて開催された「社会福祉法人小樽育成院創立百十周年記念事業」は満席の四百五十名の小樽市民、関係者の参列をいただき、百十年に亘るご支援に感謝すると共に当法人の活動を知っていただくという当初目的を達成することができました。

最初に、高橋昭三理事長の挨拶、引き続き小樽市長山田勝麿様のご祝辞をいただきました。

次に明治三十一年に南部藩士中島武兵が民家に孤児三名を収容した時から現在の事業展開までの百十年の歴史をまとめたＤＶＤの上映があり、小樽の繁栄の影に隠れ、あまり語られることのなかった小樽の福祉の歴史が紹介されました。小樽市民と密接に関わって小樽育成院の福祉事業が行われてきたことを知り、参加者からは驚きの声があがっていました。

後半は小樽にゆかりの深い精神科医師香山リカさんによる「こわくない老後を過ごすために」と題した講演です。香山さんは「厳しい世の中を生きてきただけでも素晴らしいこと。うまくいったことを忘れずに、自信と誇りを持って生きることが大切です」と訴えました。参加者からは「元気をもらった」「老後を安心してすごせそうだ」との感想が寄せられました。

記念事業は当初の目的を十分に達成することができ、社会福祉法人小樽育成院が、これからも百五十年、二百年と小樽市民の福祉向上に携わっていけることを願って、滞りなく終了しました。

小樽育成院 百十年のあゆみ

明治44年
新築当時の育成院（現奥沢3-1）

天然の良港、手宮・札幌間の鉄道開通などで小樽は経済機構が集中し、街には活気があふれていました。しかし、日清戦争後の財政窮迫や明治三十年の凶作により国民生活は貧窮していたのです。

小樽育成院は明治三十一年、今から百十年前に盛岡出身の南部藩士で新聞記者をしていた中島武兵という熱血あふれる方が、今の小樽産業会館裏に孤児三名を引き取って、孤児救済の道に入られたことがルーツです。日本にまだ、「福祉」という言葉すらない時代のことでありました。

一時は資金難から消滅の危機を迎えますが、印刷所に勤め、孤児院に出入りしていた輿水伊代吉という人物がこの事業を引き継いで、見事に再建させました。

輿水は生計費を捻出するため、今の国道五号線の入船十字街から奥沢十字街にかけて開かれた朝市経営や通称稲穂沢に設置して時刻を知らせた午砲（ドン）は小樽市民の生活と深く関わっていました。また、蘭越町目国内岳ふもとで農場開墾を手がけて、自立の道と経営安定を図り、子供たちや老衰高齢者たちの暮らしと命を、精力的にはぐくんでまいりました。

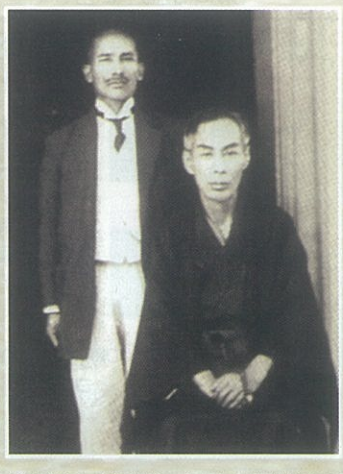
輿水亡き後は、戦中・戦後の混乱期の中、福祉は忘れ去られ、文字通り筆舌に尽くしがたい困難と障害が立ちはだかり、存続の危機に直面しました。

戦後は老人福祉専門の施設として再出発しますが、元小樽警察署長であった及川芳蔵という人が、オタモイに広大な土地を求め、当時東洋一といわれた施設を建築し、奥沢から移転し、今日の多様な事業展開の基礎を作りました。

昭和四十五年に特別養護老人ホームやすらぎ荘の運営を小樽市から受託。平成七年には養護老人ホーム小樽育成院を全室個室に改築。平成九年のオタモイデイサービスセンターの運営受託以降は在宅サービスにも取り組んでまいりました。平成16年にはやすらぎ荘を全室個室化、ユニットケア型施設に改築しています。

この間、昭和天皇をはじめ皇室各位のご来臨の栄誉を賜っています。

社会福祉法人小樽育成院
百十年のあゆみ



中島武兵（右側）と奥水伊代吉氏

大盛況の朝市場風景
（入船交番から
住吉神社方面を望む）

裁縫部の様子

小樽新聞札幌支社への見学旅行
（大正元年10月）

ども達

和暦	月日	内容
明治31年	6月10日	元南部藩・中島武兵、稲穂町の小さな民家に孤児3名を収容し、小樽孤児院として発足。
明治38年	8月1日	中島武兵退任し、赤塚治徳が引き継ぐ。
明治39年	1月18日	赤塚治徳病気のため退任し、奥水伊代吉が引継ぐ。
	5月30日	住吉神社前通りに朝市場の経営を開始した。
明治40年	2月23日	住吉座で第1回慈善音楽会を開催した。（以後23回続く）
	12月11日	奥澤村畑38番地に院舎増築落成した。
明治42年	9月11日	通称稲穂沢に午砲（ドン）を設置
明治44年	3月28日	小樽区奥沢村一三一番地（現奥沢3－1）に、新院舎を起工した。
大正5年	4月20日	後志国南尻別村字目国内農耕地を購入した。（43町8反7畝17歩）農場開懇開始した。
昭和2年	11月20日	養老部開設する。
昭和3年	8月1日	農場内に育成神社を造営した。
昭和16年	10月28日	院長奥水伊代吉死亡。
昭和20年	8月20日	外地、外国引揚者の収容を委託された。
昭和22年	4月10日	育児部を廃止する。（定員80名） 旧生活保護法により生活保護施設（養老）として許可された。
	9月3日	
昭和27年	5月8日	社会福祉法人に組織変更した。

「永遠（とわ）」に向かって

小樽育成院の長い歴史は、その都度、市民の皆様や小樽市をはじめ、多くの各界、各層からの援助を受けて今日に至りました。

その歴史を顧みるとき、法人そのものが皆様に育てられて今日があると自覚いたしまして、感謝しております。

今、日本は高齢化時代を迎えました。

国の制度も、高齢者医療制度をはじめとして、介護保険制度も多くの問題を抱え、私ども関係者は苦しい思いをしております。

しかし、それでもなお、私たちは介護や福祉に携わる者として、高齢化率の高い小樽市民への支援を続けていかな

北海道功労賞贈呈式（平成15年9月）

美智子妃殿下から優しいお言葉を賜る（昭和55年2月）

粉骨砕身育成院再建に取り組んだ及川芳蔵氏

理想郷建設を志す職員と（現蘭越町上里地区）

昭和32年	1月28日	人にお言葉を賜る。
昭和39年	6月30日	及川芳蔵が常務理事・院長に就任した。
		秩父宮妃殿下新築院舎へ御来臨を賜る。
	7月3日	奥沢町旧院舎よりオタモイの新築院舎へ移転を開始した。
昭和40年	7月2日	及川芳蔵常務理事　院長の胸像除幕式を行う。
		常陸宮ご夫婦のご来臨を賜る。
昭和41年	8月9日	小樽市特別養護老人ホームやすらぎ荘の経営を受諾した。（定員50名）
昭和45年	6月1日	
昭和49年	8月20日	及川芳蔵常務理事・荘長兼院長が死去。
		常陸宮妃殿下がご視察された。
昭和50年	7月31日	
昭和55年	2月14日	皇太子殿下・皇太子妃殿下（現天皇・皇后両陛下）が小樽育成院・やすらぎ荘をご視察された。
平成7年	11月13日	育成院新施設（全室個室）が完成した。
平成9年	1月1日	小樽市オタモイデイサービスセンターの経営を受託した。
平成11年	7月11日	常陸宮妃殿下が新施設をご視察された。
	2月18日	皇太子殿下・妃殿下ご視察。
	10月1日	居宅介護支援事業所オタモイケアプランセンターを開設した。
平成14年	8月1日	小樽市よりやすらぎ荘及びオタモイデイサービスセンターの建物を無償譲渡される。
平成15年	9月18日	北海道功労賞を受賞する。
		やすらぎ荘改築（全室個室ユニット型）本体工事が完了し、移転する。
平成16年	2月16日	北西部地域包括支援センターの運営を小樽市より受託。
平成19年	1月1日	創立百十周年記念事業を挙行。
平成20年	6月21日	

ければならない責務があります。

目の前にある困難を克服して、なお前に進まなければなりません。

現在、私どもの法人は養護老人ホーム小樽育成院、特別養護老人ホームやすらぎ荘の二つの老人ホーム、さらに通所介護のオタモイデイサービスセンター、ケアプランを作成するオタモイケアプランセンター、高齢者の生活総合相談を行う北西部地域包括支援センターの在宅系サービスなど合わせて八つの事業を展開して、高齢者の生活支援を行っています。

皆様に育てられてまいりました私たちの福祉法人を今まで以上に知って、身近に感じていただき、私たちもその職責の重さを自覚して、今後一層活動して参りたいと思います。

第1回 オタモイ唐門祭り

去る六月二十日(土)、昨年まで「やすらぎ荘祭り」として施設関係者のみで行っていたお祭りが今年から「オタモイ唐門祭り」と名称を変更し、法人内各施設・事業所及びオタモイ町会が共催して法人敷地内で行われました。

「唐門」とはオタモイ海岸にあった料亭「竜宮閣」の入口門で、現在はオタモイ海岸通りに移築され、オタモイ地区のシンボルになっています。

会場内には食べ物屋台、フリーマーケット、綿あめ、ヨーヨーすくいなどが出店しました。ステージでは潮太鼓の演奏、フラメンコ舞踏、保育園の遊戯が披露されました。

初夏の風と日差しを浴びながら、ホーム利用者、ご家族、町内の方々が大勢集まり、のんびりと祭りを楽しんでいました。

当法人の事業方針として「地域」をキーワードとして取り組んでいますが、世代を超え、地域の人たちが一緒に過ごした楽しい一日になりました。

保育園児遊戯

フラメンコ舞踏

潮太鼓

平成１９年度決算状況をお知らせいたします。

平成２０年５月２７日に特別養護老人ホームやすらぎ荘会議室で開催された理事会及び評議会において、平成１９年度事業報告及び決算報告が承認されました。当法人定款第２３条第２項の規定により、掲載いたします。

なお、決算報告等の細部については、特別養護老人ホームやすらぎ荘並びに養護老人ホーム小樽育成院において開示しております。

平成19年度資金収支決算内訳表

（自）平成19年4月1日（至）平成20年3月31日

社会福祉法人　小樽育成院　（単位：円）

勘定科目			合計	法人本部	小樽育成院 合計	小樽育成院 入所	小樽育成院 特定施設	小樽育成院 訪問介護	やすらぎ荘 合計	やすらぎ荘 入所	やすらぎ荘 短期入所	デイサービス	地域包括支援	ケアプラン
経常活動による収支	収入	介護保険収入	609,058,172	0	42,514,200	0	23,058,900	19,455,300	472,602,328	428,379,638	44,222,690	53,293,444	28,479,900	12,168,300
		利用料収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		措置費収入	336,666,212	0	336,666,212	336,666,212	0	0	0	0	0	0	0	0
		経常経費補助金収入	54,007	0	54,007	54,007	0	0	0	0	0	0	0	0
		寄付金収入	24,067,449	21,182,442	521,800	521,800	0	0	2,353,207	2,353,207	0	10,000	0	0
		雑収入	12,845,190	140,327	3,579,713	3,579,713	0	0	9,058,100	9,058,100	0	67,050	0	0
		借入金利息補助金収入	3,246,209	0	217,258	217,258	0	0	3,028,951	3,028,951	0	0	0	0
		受取利息配当金収入	854,423	336,383	269,878	269,627	243	8	212,270	212,270	0	13,324	12,811	9,757
		会計単位間繰入金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		経理区分間繰入金収入	14,800,000	0	12,900,000	12,900,000	0		0	0	0	0	0	1,900,000
		経常収入計(1)	1,001,591,662	21,659,152	396,723,068	354,208,617	23,059,143	19,455,308	487,254,856	443,032,166	44,222,690	53,383,818	28,492,711	14,078,057
	支出	人件費	530,797,245	0	188,412,025	95,018,698	37,357,329	56,035,998	266,069,016	231,782,136	34,286,880	42,924,530	20,868,633	12,523,041
		事務費支出	199,615,860	2,141,904	87,518,115	63,814,135	21,579,640	2,124,340	95,082,715	82,560,889	12,521,826	8,847,759	4,193,390	1,831,977
		事業費支出	185,699,222	0	105,771,189	102,517,231	3,253,958	0	70,576,854	62,396,573	8,180,281	8,759,672	426,308	165,199
		借入金利息支出	11,922,076	0	1,538,925	1,538,925	0	0	10,383,151	10,383,151	0	0	0	0
		経理区分間繰入金支出	14,800,000	11,900,000	0	0	0	0	2,900,000	2,900,000	0	0	0	0
		利用者負担減免額	4,148,589	0	0	0	0	0	4,035,747	3,972,473	63,274	112,842	0	0
		経常支出計(2)	946,982,992	14,041,904	383,240,254	262,888,989	62,190,927	58,160,338	449,047,483	393,995,222	55,052,261	60,644,803	25,488,331	14,520,217
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)			54,608,670	7,617,248	13,482,814	91,319,628	△ 39,131,784	△ 38,705,030	38,207,373	49,036,944	△ 10,829,571	△ 7,260,985	3,004,380	△ 442,160
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0
		施設整備等寄付金収入	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0
		固定資産受贈額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		固定資産売却収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		施設整備等収入計(4)	6,000,000	0	6,000,000	6,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0
	支出	固定資産取得支出	12,213,947	0	10,505,250	10,505,250	0	0	414,960	414,960	0	0	1,293,737	0
		元入金支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		施設整備等支出計(5)	12,213,947	0	10,505,250	10,505,250	0	0	414,960	414,960	0	0	1,293,737	0
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)			△ 6,213,947	0	△ 4,505,250	△ 4,505,250	0	0	△ 414,960	△ 414,960	0	0	△ 1,293,737	0
財務活動による収支	収入	借入金元金償還補助金収入	26,607,501	0	11,900,000	11,900,000	0	0	14,707,501	14,707,501	0	0	0	0
		投資有価証券売却収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		借入金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		積立預金取崩収入	5,009,551	5,009,551	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他の収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		財務収入計(7)	31,617,052	5,009,551	11,900,000	11,900,000	0	0	14,707,501	14,707,501	0	0	0	0
	支出	借入金元金償還金支出	72,197,501	0	22,490,000	22,490,000	0	0	49,707,501	49,707,501	0	0	0	0
		投資有価証券取得支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		積立預金積立支出	10,089,622	89,622	10,000,000	10,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他の支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		流動資産評価減等による資金減少額等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		財務支出計(8)	82,287,123	89,622	32,490,000	32,490,000	0	0	49,707,501	49,707,501	0	0	0	0
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)			△ 50,670,071	4,919,929	△ 20,590,000	△ 20,590,000	0	0	△ 35,000,000	△ 35,000,000	0	0	0	0
予備費（10）			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			△ 2,275,348	12,537,177	△ 11,612,436	66,224,378	△ 39,131,784	△ 38,705,030	2,792,413	13,621,984	△ 10,829,571	△ 7,260,985	1,710,643	△ 442,160
前期末支払資金残高(12)			386,094,925	83,921,133	107,889,122	112,256,516	△ 2,489,946	△ 1,877,448	172,053,728	190,597,904	△ 18,544,176	15,493,701	△ 659,043	7,396,284
当期末支払資金残高(11)+(12)			383,819,577	96,458,310	96,276,686	178,480,894	△ 41,621,730	△ 40,582,478	174,846,141	204,219,888	△ 29,373,747	8,232,716	1,051,600	6,954,124

中央競馬馬主社会福祉財団並びに函館馬主協会助成事業完了のお知らせ

このたび財団法人中央競馬馬主社会福祉財団から、平成19年度助成金の交付を受け、左記の事業を完了致しました。

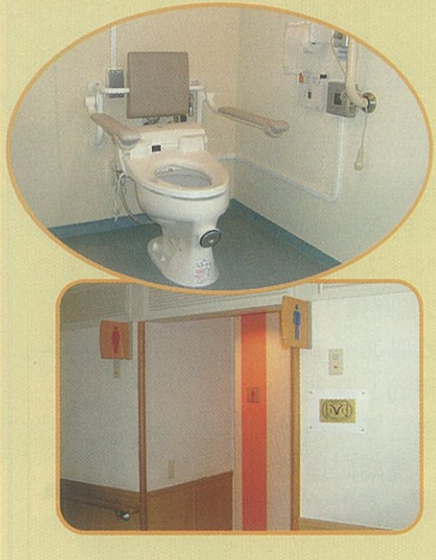
ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、財団法人中央競馬馬主社会福祉財団並びに社団法人函館馬主協会をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

記

一、事業名　養護老人ホーム小樽育成院便所改修工事
一、事業費総額　７７７万円
一、助成金額　５００万円
一、施設名称　養護老人ホーム小樽育成院
一、施設所在地　小樽市オタモイ１の２０の２０
一、完了年月日　平成19年12月27日

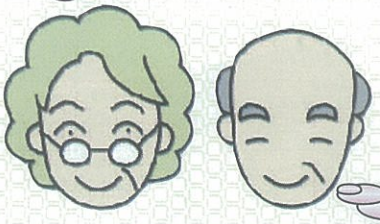
社会福祉法人　小樽育成院

助成をいただいて改築した身障トイレのひとつ



介護サービスQ&A

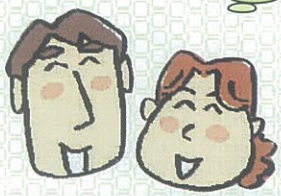
介護保険のサービスを
使いたいけど･･･
どうしたらいいの？



介護の事で困って
いるんだけど･･･

訪問販売に遭って
しまって･･･

認知症について勉強
したいんだけど･･･



介護保険で**要介護１～５**の認定を受けられている高齢者ご自身、介護されている方の介護上の悩みやご相談などにお応えします。
オタモイケアプランセンターへご連絡下さい。
電話 0120－514－294

小樽市北西部地域包括支援センターで、さまざまな問題についてご相談に応じます。
地域住民向け研修会も開催いたします。
電話 28－2522
要支援１～２の認定の方の介護保険サービスの調整は当センターで承ります。

養護老人ホーム小樽育成院内にAED（自動体外式除細動器）を設置

国内で非常に多い心臓突然死、その中で特に多いのが心室細動によるもので、発生した場合は早期の除細動が救命の鍵となります。

ＡＥＤは、音声メッセージに従って操作し、コンピュータ作動によって自動的に心電図を判読して、必要な場合のみ、電気ショックを与える機器です。

最近では空港やホテルなどの公共施設に広く設置されるようになってきており、当法人においても、いざという時の緊急対応に役立てて行きたいと考えております。

災害時の一時避難場所として施設を開放!

「災害は忘れた頃にやってくる」といいます。
万一、地震等の発生により住宅の損壊で緊急的に避難場所が確保できない場合に一時的にやすらぎ荘の地域交流スペースを開放します。特に冬場の災害においては力を発揮することでしょう。

なお、この開放はあくまで「緊急的」「一時的」な対応で、地域住民に便宜を図るとの趣旨ですので、長期に亘る避難所ではありませんのでご理解下さい。